

令和6年度 第1回 石巻圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

■日 時：令和6年7月23日（火）18：30～20：00

■場 所：庁議室

■出席者：別紙のとおり

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンの進捗管理にあたり、構成員から様々な意見を幅広く聴取するため懇談会を開催した。

- 1 開会
- 2 座長・副座長選任
- 3 石巻圏域定住自立圏共生ビジョンの概要及び一部変更について
（資料1－1及び1－2に基づき説明）
- 4 石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに位置付けた連携事業における令和4年度実績の修正について（資料2に基づき説明）
- 5 各分科会に分かれて意見交換
各分科会については、別紙のとおり。
- 6 各分科会からの意見共有（各座長から説明）
意見については、別紙のとおり
- 7 閉会

医療福祉分科会

■日 時：令和6年7月23日（火）19：00～19：40

■場 所：401会議室

■出席者：別紙のとおり

事務局から令和5年度ビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和5年度までの進捗状況・令和6年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【全体について】

（構成員）

それぞれの市町独自の政策を尊重しながらも、2市1町でなぜ・何を・どのように連携していくのかという「根っこ」を明確にすることが重要と考える。その「根っこ」を土台としながら、現在は既存の事業の連携が主になっているが、産業・観光等の大きな柱を立て、焦点化した事業を設定し、施策をけん引するプロジェクトチーム（6名程度）を立ち上げてはいかか。

【救急医療・地域医療連携体制整備事業】

（構成員）

この事業については具体的に何を実施するものなのか。

（座長）

- ・在宅当番医制事業、石巻市夜間急患センターの運営による一次救急医療体制、病院群輪番制事業、救命救急センター等運営費助成事業による二次・三次救急医療体制を維持。

- ・障がい児・者歯科診療対策事業による歯科診療を実施。
- ・地域医療構想調整会議、災害保健医療連絡会議等に参加し、大規模災害時の保健医療救護活動の円滑化を図る。

ことを事業内容としており、圏域の課題を解決していくために実施するものだが、救急医療については現状の体制を維持していくものと考えている。

【子育て支援センター相互利用等事業】

(構成員)

産後鬱や虐待など、命を救うための施設である。妊娠期からの利用も促進しており、子育て支援センターの事業を地域住民に向けて周知を行う必要があると思う。障害児等が通常利用したいとの声も届いており、そういった方に向けた周知も必要と感じる。また、国の動きを注視しつつ、時間の延長などの機能強化を図りながら相互利用を促進できたら良いと思う。

(構成員)

令和6年度の取組予定にある合同研修会について、子供の成長にとって非常に重要なものであるが、研修会の内容や参加見込み人数についてお聞きしたい。研修を実施しただけで終わらないよう、質の高い内容にする必要がある。

(座長)

内容や参加人数については、後日回答させていただきたい。

→後日確認：研修実施内容に検討を要したため、10月開催に向けて講師と調整中。

内容は「発達障害者支援」について予定。

参加予定人数は50名程度。

(構成員)

子育て支援センター相互利用等事業及びファミリーサポートセンター連携事業の実績値について、東松島市の内訳を教えてください。

(座長)

子育て支援センター相互利用等事業については、令和4年度が6,499人に対し、令和5年度は33,637人となっている。ファミリーサポートセンター連携事業については、令和4年度が185人に対し、令和5年度は2,134人となっている。

(構成員)

増加している幅がおかしいように感じるため、確認が必要ではないか。

(座長)

実績値を再度確認する。

【ファミリーサポートセンター連携事業】

(構成員)

市民同士が預かり合いをするというもので、預かる側も元気になるので、支え合いの意味でも重要と感じるが、地域の事情や取組の必要性もあるため、難しい部分だと感じた。現在では、石巻のお子さんは石巻の方に預ける、東松島のお子さんは東松島の方に預けるという形になっているが、例えば石巻のお子さんを東松島の方に預けるといったように、圏域での相互利用が実現すれば、仕事で市外に通う方なども多くいるため、とても良いと思う。

教育分科会

■日 時：令和6年7月23日（火） 19：00～19：40

■場 所：402会議室

■出席者：別紙のとおり

事務局から令和5年度ビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和5年度までの進捗状況・令和6年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【陸上競技場整備事業】

（構成員）

以前は2030年4月にオープンと聞いていた。現在のスケジュールはどうなっているのか。

また、数値目標について、令和8年度に整備進捗率が100%となっているが、どういうことなのか。

（座長）

基本計画の策定がずれることになるが、建設の時期がずれ込むのかは不明である。

数値目標については、建設完了が令和8年度で100%になるという考え方ではないため、先ほどの全体会で説明があったように、目標の見直しが必要になる。

【石巻市特別支援教育共同実習所運営事業】

（構成員）

圏域の特別支援学級在籍人数が1学年40人を超える現状であるが、活用にあたっては、将来的な見通しや東松島市との締結について伺いたい。

また、令和6年度の取組に集団宿泊活動や通所生徒によるレクリエーションとあるが、ぜひ一堂に会して実施してはいかがか。

（副座長）

東松島市においては、独自事業で行えている現状であり、石巻市との締結については考えていない状況である。今後そういった声があった際には検討していく。

（構成員）

現在、共同実習所の定員が超えている現状があり、今後さらに生徒が増えた際には現在の場所での運営が困難であるため、将来的にこういった形になるのか、スケジュールを出して

いただけたらありがたい。

(副座長)

今後5年後10年後、人口が減少し、東松島市では生徒数が20%減少する見込みも出ているため、そういった部分を踏まえて今後計画を練っていく必要がある。

(座長)

石巻市においても年間で約200人数ずつ児童生徒数が減少しているため、今後の推移を注視しつつ検討する必要がある。内容については担当課にお伝えする。

【図書館相互連携事業】

(構成員)

共同開催イベントでは、各市町の図書館でスタンプラリーを実施すれば子どもたちが喜びそうと感じる。その際は専修大学の図書館とも連携できるといいのでは。

【社会教育団体交流事業】

(構成員)

人口減少に伴い児童生徒数も減少している現状で、ジュニアリーダーの確保も難しくなっている。研修の日程や内容を見直したり、活動自体が負担にならないような体制を作ったり、誰でも参加しやすいような環境づくりが大切と感じる。

ジュニアリーダーなどの活動が積み重なり、将来地元に戻ってきて社会教育委員となったり地域を支える人材になったりと、そういった人材を育てる第一歩になると思う。

【石巻専修大学地域連携事業】

(構成員)

圏域住民を対象とした講演会のようなものは実施しているのか。

(構成員)

「みやぎ県民大学」というものを実施しており、今年は「地元を知って未来を語る」というテーマで全6回実施し、100人を超える方々と意見を出し合った。

(構成員)

子どもたちの意見を吸い上げるよう機会はあるのか。

(座長)

石巻市では、「こどもまんなか」宣言をしている。国でも政策に子どもの意見を反映していくという流れになってきているため、同様に行政でも求められてきており、子どもたちの意見を聞きながら政策を進めていくようになると思う。

産業分科会

■日 時：令和6年7月23日（火）19：00～19：40

■場 所：502会議室

■出席者：別紙のとおり

事務局から令和5年度ビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和5年度までの進捗状況・令和6年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【第1次産業振興事業】

（構成員）

各市町で会議を行っているとのことであるが、県の農業法人協会等と情報共有すると思う。

（座長）

担当部署に伝えさせていただく。

（構成員）

東松島市の地域おこし協力隊では、農家で農業を学んでいる方もおり、市町村間で受け入れ含めて連携できれば、担い手不足解消に繋がっていくと思う。

【港湾整備利活用の促進】

（構成員）

取組に先進港視察とあるが、どこの部署が行ったのか。

（座長）

市、商工会議所、企業から構成される石巻港・利用促進期成同盟会が行ったもの。

（構成員）

大型客船が来航する際は、石巻地域の漁業者に周知するため、情報提供いただけるとありがたい。

（座長）

来航する際は、担当課から連絡するよう伝える。

(構成員)

昨年度と比較し、大型客船の来航が少ないように感じるが、原因はあるのか。

(座長)

今年度は石巻港を経由するプランがなく、来航が少ないものと思われる。

【企業立地活動事業】

(構成員)

実績値の内訳は。

(座長)

令和4年度については、石巻市9件、東松島市2件、女川町1件の計12件。令和5年度は、石巻市8件、東松島市4件、女川町0件の計12件である。

(構成員)

様々な企業で人手不足となっている話を聞くが、そういったことに対する制度はあるのか。

(座長)

どこの自治体でも企業にとって人手不足となっている。求人の件数はあるが求職者のニーズと合致しない状況があるため、対策が必要な部分である。

(構成員)

圏域で、誘致した企業による高校生向けの就職セミナーや相談会は実施しているのか。

(座長)

高校生の就職は、親の意向が非常に強い傾向があるため、親を対象にしたものはあるようである。

(構成員)

誘致している企業の領域などはあるのか。

(座長)

立地場所を考慮しつつ、助成金や補助金の対象となる指定業種を中心に行っている。

【広域観光推進事業】

(座長)

トップセールスの成果は。

(構成員)

今年、2市1町の首長とともに、JTBの本社及び近畿日本ツーリストの本社を訪れ、教育旅行の担当者に繋いでいただいた。まだ誘致までは繋がっていない。

(構成員)

広域で連携して観光協会など現場レベルでの要望も実施できたら良いと思う。

(構成員)

令和5年度実績値が目標値をクリアしているが、見直すのか。

(座長)

クリアしているものは、見直しの対象となる。

(構成員)

東松島市で、旅行者や市内業者を対象としたマッチング会を実施しており、いちご狩り体験などを行っている。これらの取り組みを圏域で実施できれば交流人口拡大にもつながるのではないかな。

(座長)

ぜひ石巻圏DMOの方で集約していただいて、実施できればと思う。

(構成員)

非常にいい取組であるので、圏域実施に繋げていきたい。

(構成員)

実績値の確定値と速報値はどうしてずれるのか。

(事務局)

すべての集計結果が反映されていないためおおよその数値が速報値となり、全てが確定した確定値とのずれが生じるもの。データの活用という部分で、おおよその速報値を算出しているものである。

(構成員)

懸案事項で、収益事業分野における収益及び収益率の向上とあるが、泊まっていただくことで収益率向上につながると思うが、圏域で考えていることがあるのか。

(構成員)

みちのく潮風トレイルやオルレなどで集客を図っているが、お金を落とさない傾向にある。通過ではなく泊まってもらう仕組みや、客のニーズを把握し不便なところをカバーできるサービスの提供が必要と感じている。

【ニホンジカ対策の推進】

(構成員)

実績値で被害額が減少しているが、成果が出てきているという理解でよろしいか。

(座長)

減っているという感覚はあまりないのかもしれないが、生息数が減ってきているという県公表のデータがある。

(構成員)

石巻市と女川町での連携事業としているが、共同で捕獲作業を行っているのか。

(副座長)

共同ではなく、支部ごとに行っている。

まちづくり分科会

■日 時：令和6年7月23日（火）19：00～19：40

■場 所：500・501会議室

■出席者：別紙のとおり

事務局から令和5年度ビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和5年度までの進捗状況・令和6年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

分科会の司会について、松村 豪太 構成員に選任

【ごみ減量化・再資源化推進事業】

（構成員）

ごみ削減について、市民の協力が必要不可欠である。そのため、市民へしっかり伝える仕組みを作る必要があると思う。

（座長）

ごみの削減について、2市1町で連携を取りながら進める必要がある。いただいたご意見については、担当課に伝えさせていただく。

（構成員）

ごみで発電する仕組みを取り入れている自治体もあり、研究してはどうか。新潟県十日町市では、既に大人用おむつを固定燃料に再生させる事業を行っている。そういった先進的な事例を研究することが必要と考える。

（座長）

2市1町での取り組みの中で、研修会などへ参加する場を設けてもいいのかもしれない。ワーキンググループの中で協議したい。

【災害時相互応援事業】

（構成員）

近年、大きな地震が頻発している状況である。災害に備えるにあたっては、訓練に勝るものはない。自治体内での訓練のほかに、2市1町合同での訓練を実施してはどうか。

(座長)

ワーキンググループで共有させていただく。

【公共交通関係】

(構成員)

ライドシェアやコミュニティ・カーシェアリングという仕組みについて、半島沿岸部などの地域においてはタクシーでのカバーが難しい部分もあるため、必要と考えるが、それ以外の地域においては、その仕組みが普及した場合、タクシーの需要が減ることも想定され、業界では危機感を感じているところである。

(座長)

難しい部分ではあるが。お互いの話し合いの中で共存していく必要があると思う。ご意見として承る。

(構成員)

女川町の高齢者を対象に調査した際、必要なときにタクシーなどの必要な公共交通機関が使用できないという結果が出た。東北電力でバスを出してるが、そういったところに声を届ける必要がある。広域で議論できたらライドシェアの必要性が高められると思う。

(構成員)

人口減少が止められないという事実がある。高齢者が増えており、その家族たちは事故を起こさないか心配している方も多くいると思う。そういった状況でタクシーという交通手段は非常に重要であり、プロのドライバーがいたり、これまで築き上げてきたノウハウがあるため、ぜひ生かしていただきたいと思う。

【移住定住促進事業】

(構成員)

人口減少が進む中で、人口ピラミッドが崩れ、生産年齢人口が減っていくという事実がある。自治体間で人口の奪い合いとなっている側面があるが、これからは人口が少なくなることを前提とした、いかに幸せで豊かなおもしろい暮らしをしていくかという視点が重要と考える。

(副座長)

仕事や学校などの関係で、移住者を増やすことはハードル高い部分がある。女川町では関係人口についての政策を行っており、研究していきたいと思う。

(座長)

人口減少は今後進むという事実があるので、関係人口・交流人口増加に向けた取組が重要である。

(構成員)

これまで圏域から転出した方は、何が原因となっているのか、詳しく調査できてはいないと思う。そういった原因を把握する必要があると感じるとともに、圏域に残ってもらうため、子どもたちが仕事などについてどのような考えを持っているのか把握する必要があると感じる。

各分科会からの意見共有

各分科会座長から主な意見を説明。

【意見】

(構成員)

図書館への返却について、総合支所等で行えるといった仕組みがあればと思う。

(教育分科会 座長)

総合支所にも図書館の分館がある。分館への返却は可能か確認する。

→後日確認：総合支所ごとにある分館にて返却可能とのこと。

(構成員)

石巻圏域には、小学校から大学まで揃っている環境がある。中学生から圏域を出てしまう事例もある。小学校から大学まで、体験型の教育を通して生きがいを見つけるきっかけになると考えており、定住に繋がるものと考えている。そういった取組を大学と協力して行えたらと思う。

(まちづくり分科会 座長)

圏域の高校は定員割れが多く、仙台圏に行ってしまうのは課題と感じている。

石巻専修大学で策定中の中長期ビジョンにおいて、小学校から大学まで、教育環境の充実について連携して取組を進めていくと聞いている。石巻市の政策企画課で石巻地域高等教育事業団の事務局を担当しているため、一層の教育振興に向け、圏域での連携を強化していきたい。

(構成員)

移住の理由として、お金や仕事の問題の他に、遊びや文化という理由も多くある。文化や学びは重要であるため、圏域の文化や学びという部分を発信することが重要である。

石巻専修大学では地域と連携事業を進めており、素晴らしいことだと感じるため推進していただければと思う。

(構成員)

資料について、事前に送付していただけると助かる。

(事務局)

今後は事前に送付させていただく。